越前若狭 歴史巡り ～偉人群像～

激動の幕末にあった静寂 福井藩主・松平家の別邸

養浩館庭園

ようこうかんていえん

【福井市】

JAPAN HERITAGE 日本遺産

幕末の福井藩主・松平春嶽は「幕末の四賢侯」と呼ばれた名君の一人。彼のもとには坂本龍馬が何度も訪れるなど、幕末期の福井は重要な役割を担っていました。

福井市にある養浩館庭園は、江戸時代初期から後期にかけて造られた福井藩主・松平家の別邸。明治17年（1884）に春嶽によって「養浩館」と名付けられました。

その姿は凛として美しく、今も市民の憩いの場として親しまれています。

かつて「御泉水屋敷（おせんすいやしき）」と呼ばれていた、福井藩主・松平家の別邸。福井城址より約300m北に位置し、幕末には洋式銃の製造所にもなっていました。池を全方向から見渡せる回遊式林泉（りんせん）庭園で、数寄屋造りの座敷部から眺める池は、見る人の心を落ち着かせてくれます。

幕末の偉人群像

福井市立郷土歴史博物館蔵

松平春嶽

まつだいらしゅんがく

文政11年（1828）～明治23年（1890）

第16代福井藩主・松平春嶽は、弱冠11歳で田安徳川家より迎え入れられ越前松平家の家督を相続。財政改革や教育改革、さらには軍備増強にも取り組むなど、その政治手腕は広く知られ、橋本左内や由利公正など、実力のある人物は身分を問わず積極的に登用した。幕末の動乱期に宇和島藩主・伊達宗城、土佐藩主・山内容堂、薩摩藩主・島津斉彬とともに「幕末の四賢侯」とも称された。

福井市立郷土歴史博物館蔵

由利公正

ゆりこうせい

文政12年（1829）～明治42年（1909）

坂本龍馬が新政府の財政担当に登用するよう懇願した人物が、福井藩士・由利公正（三岡八郎）だった。熊本藩士・横井小楠に師事し、藩札の発行や産業振興で福井藩の財政を立て直し、明治政府では現在の財務大臣にあたる参与・御用金穀取扱に就任した。

「五箇条の御誓文」の基になったとされる「議事之体大意」

福井市立郷土歴史博物館蔵

橋本左内

はしもとさない

天保5年（1834）～安政6年（1859）

医者の家庭に生まれた橋本左内は、弱冠15歳で心得『啓発録』を記し、22歳で福井藩政への登用が決まると、藩校「明道館」で教育の振興を行う。その後、松平春嶽に登用され、徳川慶喜（後の第15代将軍）擁立に奔走するが、安政の大獄にて処刑される。

福井市左内町にある「左内公園」に石碑と墓が建っている